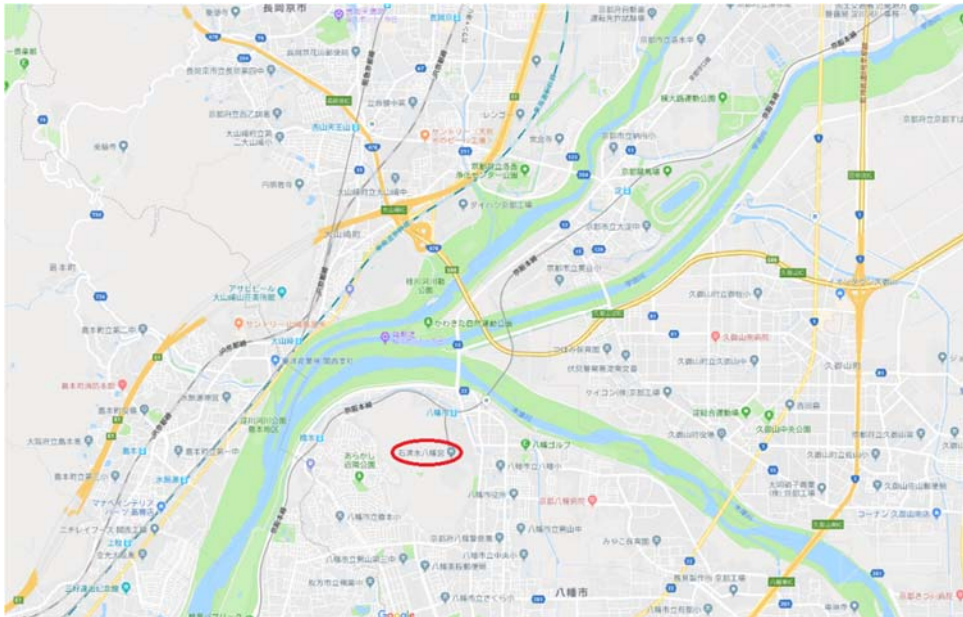


2019. 4. 12
アルケミストの小屋屋

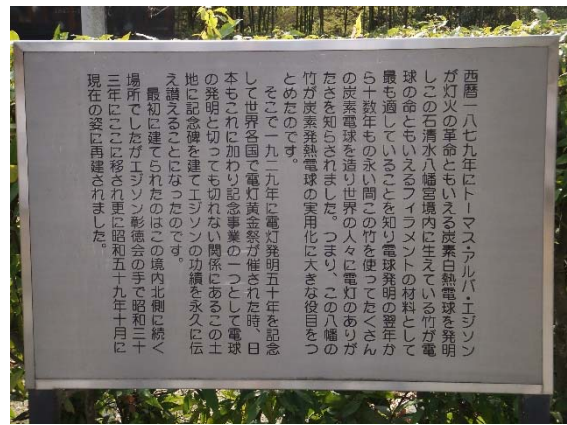
京都府八幡市の石清水八幡宮にエジソン記念碑が

八幡市は京都府南部に。桂川、宇治川、木津川が一つになる交通の要衝の地。



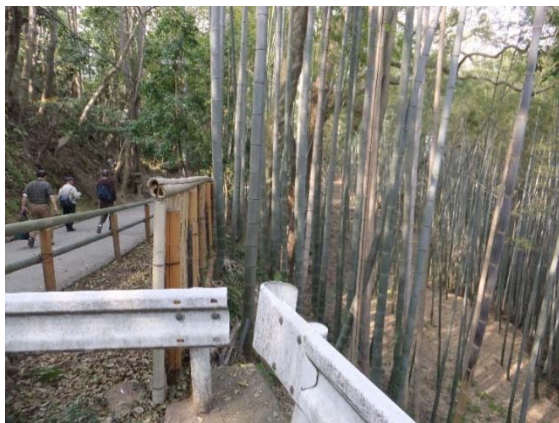
エジソン記念碑がある。





写真からは読み取りにくいですが、エジソンの次の名言が刻まれている。

Genius is 1 percent inspiration and 99 percent perspiration.



境内には竹藪が広がる。

なぜ、石清水八幡宮の竹がフィラメントの材料として選ばれたのか？

エジソンと日本のかかわり (<http://www.edisonworl10.com/person/japan.html>) より引用

エジソンが白熱電球を発明したエピソードにおいて、必ず登場するのが日本の竹です。なぜエジソンは電球の材料として竹を選び、日本の竹に行き着いたのでしょうか？

ある日エジソンは、中国のお土産として研究所に転がっていた扇子の骨に使われていた竹をフィラメントに使ってみることにしました。すると、連続点灯時間が 200 時間を越えたのです。エジソンは早速世界中の竹を集め実験することを決めたのです。

エジソンは、竹を世界中から集めるために 10 万ドルの費用を費やし、20 人の調査員を世界中に派遣したといわれています。

調査員の一人は、日本の竹を集めるために当時の首相であった伊藤博文や外務大臣の山県有朋に面会し、「竹ならば京都が一番である」という情報を得ます。

そして、向かった京都では当時の府知事である榎村正直に面会し「嵯峨野か八幡ならば良質の竹がふんだんにある」と紹介されたのです。この時、調査員が集めたのが八幡男山の岩清水八幡宮の境内に生えていた真竹です。

この八幡の真竹は 1200 時間という今までの記録を塗り替える連続点灯時間を示し、エジソンに「白熱電球の発明者」の栄誉をもたらしたのです。